

- TPM-i 取扱説明書 -

安全にお使いいただくために



重要

本製品をより効率的にお使いいただくために、取扱説明書の内容についてよくご理解してください。

この取扱説明書は、本製品の基本操作を説明するもので、故障を修理する方法を記載したものではありません。本製品は診断テストや車両故障のおおよその箇所を発見に使用するためのもので、車両の診断を行う際に使用者は、サービス（保守整備）マニュアルと最新の保守整備用公示資料も参照していただくようお願いいたします。

修理に関しては、製造元車両サービスマニュアルまたは他の故障修理の出版物でお確かめ下さい。



注意

本製品を十分に活用していただくためには、車両コンピュータコントロールシステムを熟知されている必要があります。

本製品を使用する際に修理書を参照せず、無理な使い方や車両を破損させた場合、本製品の正しい使用方法以外で発生した損害については、一切の責任を負いかねます。

人的な傷害を未然に防ぐために、必ずパーキング・ブレーキを確実にかけ、また車輪止めを行い、車両の点検・修理を行ってください。

車庫などの周囲が囲まれている空間でエンジンを作動させたまま点検を行う際には、必ず十分な換気を行ってください。排気ガス中には意識不明状態や死亡に至る恐れのある無色無臭で非常に危険な一酸化炭素が含まれておりますので、排気ガスは絶対に吸い込まないようにしてください。

診断ケーブルを車両に接続するときは、車両のイグニッションスイッチが OFF の位置にあることを必ず確認してください。イグニッションスイッチが ON の位置で接続すると、TPM-i 本体やプログラムを破壊する場合があります。

車両の診断コネクタにケーブルがしっかりと接続されていることを確かめてから、本製品をお使いください。

運転者は、運転中に本製品を操作しないでください。電源電圧は DC10V 以上 32V 以下でお使いください。



禁止事項

濡れた手で、本製品にふれないでください。

本体およびケーブル等を水に濡らしたり、衝撃等を与えないでください。

本体およびケーブル、アダプター等の金属端子部に直接手を触れないでください。汚れによる接触不良や静電気による破壊等が発生する場合があります。

車種によってサービスデータが有効ではない場合は

車両システムの変更による可能性があります。

本製品を分解・改造しないでください。

本体のコネクタ部に異物を入れないでください。

本製品を直射日光が当たる場所や高温になる場所または、炎天下の車室内に放置しないでください。

本製品に別の製品のケーブルを使用しないでください。



アドバイス

本製品を使用し、何度診断を試みても診断ができない場合は、診断コネクタの接触不良および断線等が考えられますのでご確認ください。また、サポートされていない車両の可能性もあります。

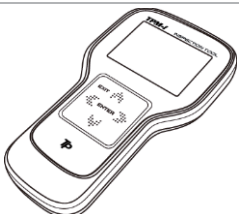
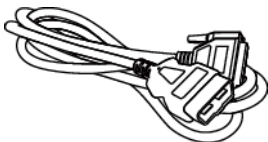
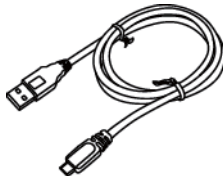

車両側の故障診断機能の対応によってはデータ表示の内容が正しくない場合があります。

目次

目次.....	3
1. 梱包品の確認.....	4
2. 各部名称.....	4
3. 登録とアップデート.....	5
ユーザー登録.....	5
アップデート.....	7
4. 準備.....	8
接続.....	8
機能説明.....	8
5. 設定.....	9
言語の設定.....	9
コントラストの設定.....	9
時計の設定.....	9
6. 本体 ID.....	10
本体情報の確認.....	10
7. 診断.....	11
故障コードの読取.....	11
故障コードの消去.....	12
データモニタ.....	12
監視システムのテスト値.....	13
データ保存.....	14
8. 履歴.....	15
保存データの表示（再生）.....	15
保存データの消去.....	16
9. その他の操作.....	17
「全自己診断」の故障コードの読取.....	17
「全自己診断」の故障コードの消去.....	19
全自己診断のデータ保存.....	20
作業サポート.....	21
カスタマイズ.....	23
10. メンテナンスモード.....	24
メンテナンスモード.....	24
11. トラブルシューティング.....	25
12. 保証について.....	29

1. 梱包品の確認

ご使用前にすべての製品が揃っていることを確認してください。
万一、不足の品がありましたらお手数ですがお買い上げの販売店までご連絡ください。

			
TPM-i 本体	OBD2 ケーブル	USB ケーブル	クイックスタートガイド

※リスト内の製品は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

2. 各部名称

<p>DB15 ポート : OBD2 ケーブルを接続します。 OBD2 ケーブルを使用して車両に接続します。</p>	
<p>液晶モニター : 各種情報を表示します。</p>	
<p>操作ボタン :</p> <p>ENTER : 決定、実行 EXIT : 中止、戻る 上下左右矢印 : 画面移動やカーソル移動</p>	
<p>USB ポート [micro-B] : USB ケーブルを接続します。 ユーザー登録やアップデートの際に付属の USB ケーブルを使用してパソコンに接続します。</p>	

本体仕様

本体寸法:	90 (W) x 160 (H) x 26 (D) mm
本体重量:	125 g
電源電圧:	10-32VDC
使用温度範囲:	0~+50℃
保存温度範囲:	-20~+70℃
湿度:	20~85%RH
標準 I/F:	CAN (ISO-11898, ISO-11519),K-Line / L-Line (ISO-9141, ISO-9141-CARB, KWP2000),Generic (pull-up,UART x 2), DDL, MMC
PC 用 I/F:	USB2.0 (OTG) high-speed
CPU:	ARM Cortex M4 180MHz
ROM (OS) :	512KB
ROM (AP) :	8GB (micro SDHC)
RAM:	128KB + 32MB
バッテリー:	リチウム 3.0V 50mAh
LCD:	2.8 インチ (320 RGB x 240 pixels) TFT カラー液晶
OS:	FreeRTOS
操作キー:	ENTER,EXIT,↑,↓,←,→

3. 登録とアップデート

出荷時に診断ソフトはインストールされていません。
 ご使用前に必ずユーザー登録を行った上で、最新ソフトへアップデートを行ってください。

1 ユーザー登録 ※パソコンの操作は Windows8 の場合です。

1.
 TPM-i とパソコンを付属の USB ケーブルで接続します。

2.
 PC 接続モードになり、パソコンに認識されます。
 「フォルダーを開いてファイルを表示」を押します。

3.
 「tpm-i」(アプリケーション) を起動して
 「登録内容変更」ボタンを押します。

エラー：自動再生が表示されない。
 ・ご使用のパソコンの設定により。詳しくは「自動再生ができない場合」(6 ページ) を参照してください。

4.
 「ユーザー登録につきまして」(プライバシーポリシー) が表示されます。内容をよく確認して[同意する]ボタンを押します。

※「登録内容変更」ボタンを押してもこの画面が表示されず「再試行して下さい」などのエラーが表示される場合は「アップデートチェック」ボタンを押してください。

5.
 「ユーザー登録」画面が表示されます。各入力欄にお客様の情報を入力して[送信]ボタンを押します。

エラー：送信できない。
 ・ユーザー登録画面の入力欄は全て入力してください。未入力欄があると送信できません。
 また、メールアドレスを間違えると「登録受付メール」が届きませんので、お間違えのないよう必ず半角英数字で入力してください。入力が正しくないと同様に「送信できません」のメッセージが表示されます。

6.

送信が完了すると入力したメールアドレスに「admin@scantool.jp」より「scantool.jp 登録受付メール」が届きます。メールを開いて本文にあるリンクをクリックします。

登録認証確認

下記リンクをクリックすると認証が完了します

<http://www.scantool.jp/script/confirm.php?passkey>

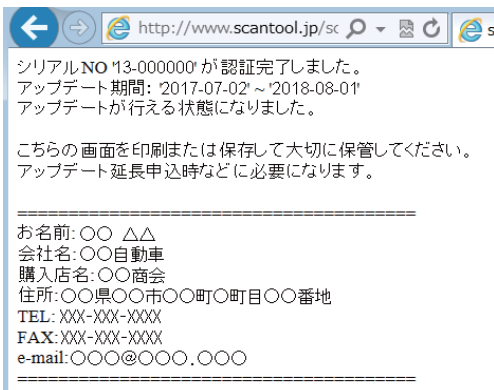


※エラー：メールが届かない

- ・メールアドレスの間違いや「迷惑メールフォルダ」などを確認してください。
- ・混雑状況により、メールの配信に時間がかかる場合があります。

7.

リンクをクリックするとご使用のブラウザで「登録したお客様情報」「認証完了したシリアル番号」「アップデート期間」が表示されます。



エラー：アップデート期間が表示されない

- ・「登録受付メール」をもう一度確認してください。ユーザー登録で送信した回数分「登録受付メール」が配信されますので、最新の「登録受付メール」のリンクをクリックして下さい。
- ・メールをブラウザでご覧になると、うまく表示できない場合があります。その場合はメールソフトでメールを確認してリンクをクリックしてください。

以上でユーザー登録が完了しました。

続いてアップデート（7ページ）にお進みください。

登録内容の変更について

使用者（会社）やメールアドレスに変更がある場合はユーザー登録内容の変更を行ってください。

登録内容変更は、最初のユーザー登録と同じ手順で行います。

変更があった欄だけでなく、入力欄は必ず全て入力してください。未入力欄がありますと送信できません。

自動再生ができない場合

1.

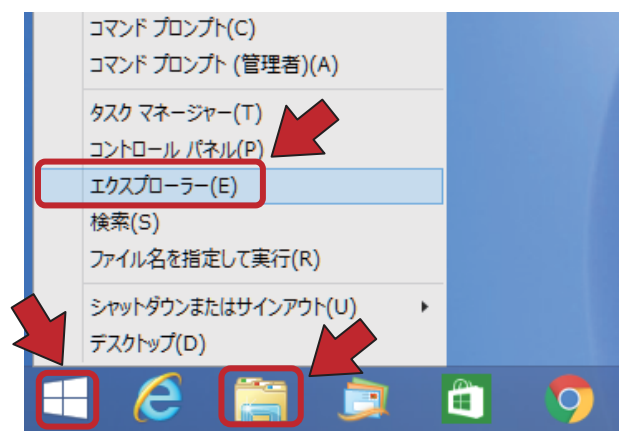
パソコンの設定で自動再生が機能していない場合は、手でパソコンのドライブを開き「tpm-i.exe」を実行する必要があります。

デスクトップ上のコンピューター（OSにより名称は異なります）をダブルクリックします。

または、「スタート」→「コンピューター」をクリックします。

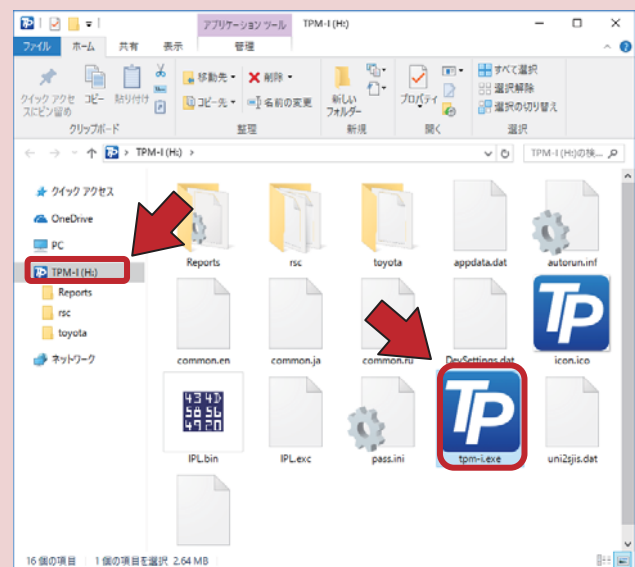
Windows 8/8.1 および Windows 10 をご使用の場合は、画面下のツールバーから「エクスプローラー」をクリックします。

または、スタートボタン（) を右クリック→「エクスプローラー」をクリックします。



2.

「TPM-I」をクリックして「tpm-i」(tpm-i.exe)のアプリケーションをダブルクリックして起動します。



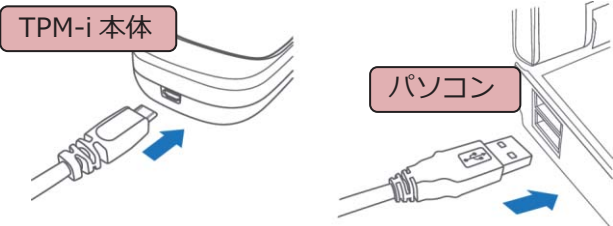
2. 登録とアップデート

※ユーザー登録に続いてアップデートを行う場合は、以下の手順 3 から行ってください。

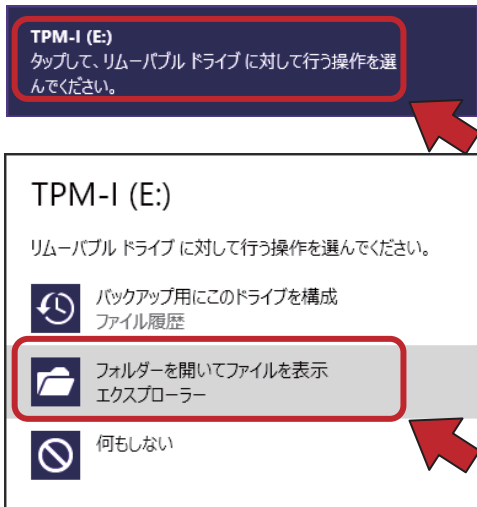
2 アップデート

※パソコンの操作は Windows8 の場合です。

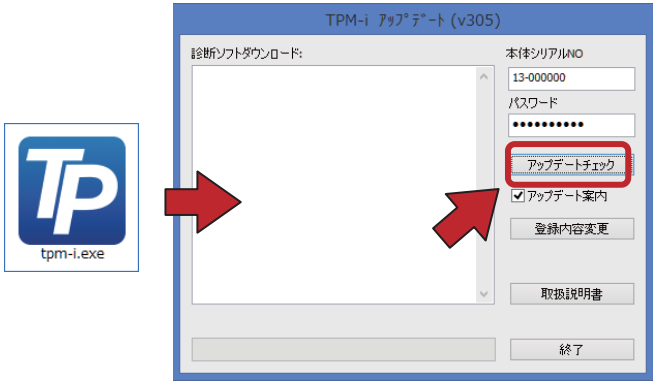
1. TPM-i とパソコンを付属の USB ケーブルで接続します。



2. PC 接続モードになり、パソコンに認識されます。「フォルダーを開いてファイルを表示」を押します。



3. 「tpm-i」(アプリケーション) を起動して [アップデートチェック] ボタンを押します。



※ご使用のパソコンの設定によって自動再生が機能しない場合は手動で「tpm-i.exe」を実行する必要があります。詳しくは「自動再生ができない場合」(6 ページ) を参照してください。

4. アップデートが始まり、ソフトが TPM-i に書き込まれます。



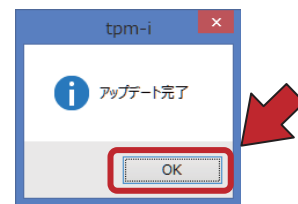
エラー：アップデートが始まらない。

- ・インターネット接続が正常ではない。
- ・セキュリティソフトでブロックされている。
⇒ セキュリティソフトのメーカーにお問い合わせください。
- ・社内ネットワークでブロックされている。
- ・しばらくアップデートを行っていない。
⇒ 「トラブルシューティング」(25 ページ) 「Q1」を参照してください。

エラー：「書き込みできません」が表示される。

- ⇒ 「トラブルシューティング」(25 ページ) 「Q1」を参照してください。

5. アップデートが完了すると「アップデート完了」が表示されます。[OK]を押してアプリケーションを終了してください。



以上でアップデートが完了しました。パソコンから TPM-i を取外してご使用ください。

4. 準備



- ・ソフトのアップデートを行い最新の状態でご使用ください。
- ・本体やケーブルに破損や損傷などが無いか確認してください。
- ・診断は基本的にイグニッション“ON”の状態で行ってください。
- ・診断がうまくいかない場合はコネクタの接続やイグニッションが ON であるか確認してください。
- ・診断を終了する際は「メインメニュー」画面まで戻りイグニッションを OFF にして取外してください。

1 接続

1. 車両が**イグニッション OFF**であることを確認して TPM-i を接続しイグニッション ON にします。

接続してからイグニッション ON



2. メインメニューが表示されます。



2 機能説明

1. メニューを選択します。
各機能説明を参考にメニューを決定してください。



診断

車両の故障診断などを行います。

「7. 診断」([11 ページ](#))を参照してください。



メンテナンスモード

よく使うメンテナンス機能（バッテリー交換やオイル交換など）が集約されています。

「10. メンテナンスモード」([24 ページ](#))を参照してください。



履歴

保存したデータを表示・再生することができます。

「8. 履歴」([15 ページ](#))を参照してください。



設定

言語切替えなどの本体設定を変更できます。

「5. 設定」([9 ページ](#))を参照してください。



本体 ID

本体 ID（シリアル番号）、アップデートおよび保証期間を確認できます。

「6. 本体 ID」([10 ページ](#))を参照してください。



5. 設定



言語切替えなどの本体設定を変更できます。

1 言語の設定

1. 「設定」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2. 「言語」を選択して[ENTER]ボタンを押します。

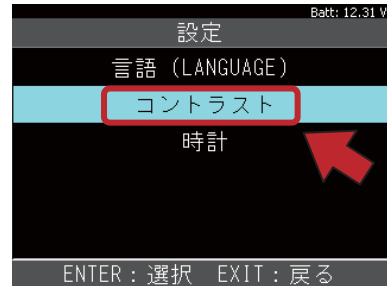


3. 上下矢印ボタンで言語を選択して[ENTER]ボタンを押して確定します。

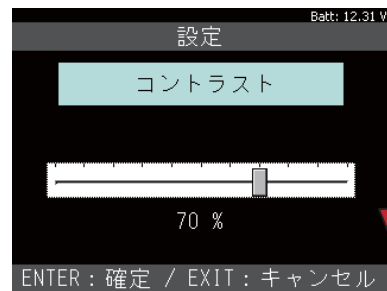


2 コントラストの設定

1. 「コントラスト」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2. 上下矢印ボタンで 10%、左右矢印ボタンで 1%ずつ調整できます。調整後、[ENTER]ボタンを押して確定します。



3 時計の設定

1. 「時計」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2. 上下矢印ボタンで変更、左右矢印ボタンでカーソルが移動します。設定後[ENTER]ボタンを押して確定します。



6. 本体 ID



本体 ID (シリアル番号)、アップデートおよび保証期間を確認できます。

1 本体情報の確認

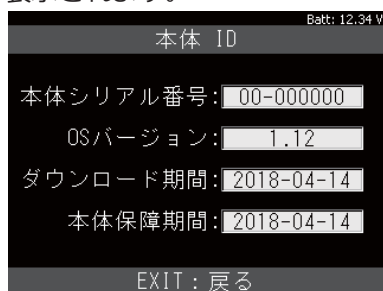
1.

「本体 ID」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2.

本体情報が表示されます。



7. 診断



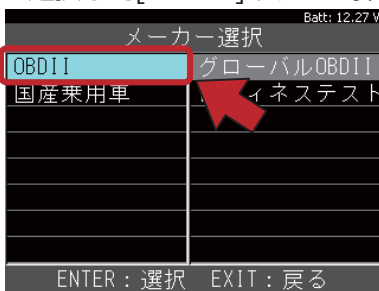
故障コードの読取やデータモニタなどを行います。

1 故障コードの読取 例：OBD2 ソフトの場合

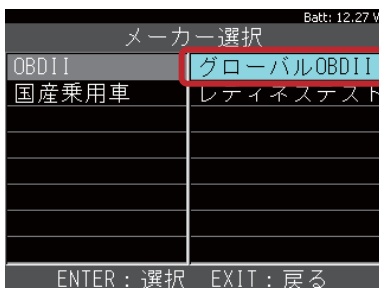
1. 「診断」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2. 「OBDII」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



3. 「グローバル OBDII」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



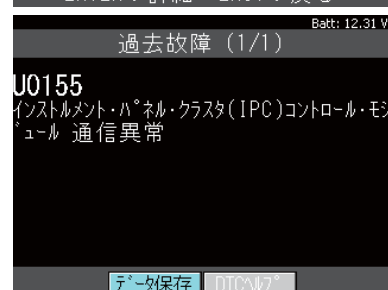
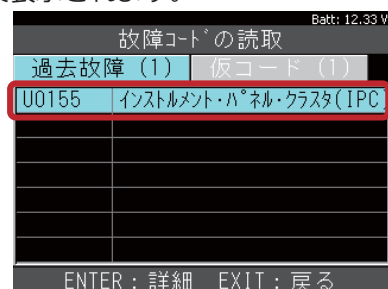
4. OBDII 規格を搭載したコントロールユニットを検出します。ユニットを選択して[ENETR]ボタンを押します。



5. 「故障コードの読取」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



6. 故障番号と内容が表示されます。内容が全文表示されていない場合は[ENTER]ボタンを押すと全文表示されます。



詳細表示画面では「データ保存」ができます。保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは「8. 履歴」(15 ページ)をご覧ください。

2 故障コードの消去 例：OBD2 ソフトの場合

1.

「故障コードの消去」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2.

消去の実行は[ENTER]ボタンを押します。消去は**イグニッション ON**で行います。



3.

消去が完了すると以下の画面が表示されます。[EXIT]ボタンを押して戻ります。



※消去できない場合は、現在も故障が発生しており、現在故障としてコードがメモリされている為です。

3 データモニタ ※OBD2 ソフトのみ

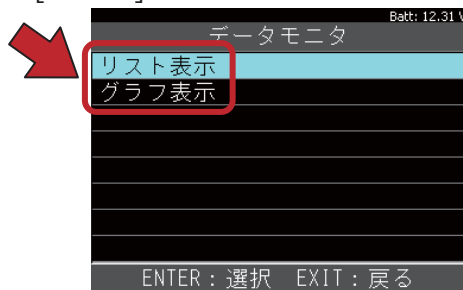
1.

「データモニタ」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2.

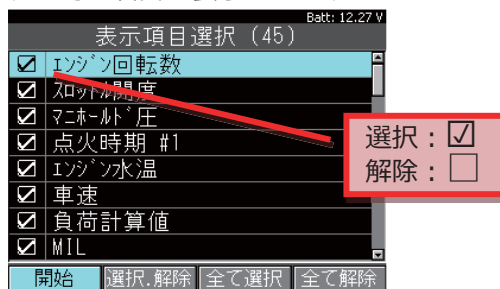
「リスト表示」または「グラフ表示」のいずれかを選択して[ENTER]ボタンを押します。



3.

表示選択項目が表示されます。

全項目にチェックが入った状態で表示されます。[開始]を選択して[ENTER]ボタンを押すとチェックが入っているすべての項目が表示されます。



[選択・解除] → 1項目ずつ変更できます。

[すべて選択] → すべての項目が選択されます。

[すべて解除] → すべての項目が解除されます。

1項目ずつ変更する場合は、左右ボタンで [選択・解除] にカーソルを合わせてから上下ボタンで変更したい項目に合わせて[ENTER]ボタンを押します。
[ENTER]ボタンを押す度に選択、解除が切替わります。

3. 基本操作

4.

選択した項目が表示されます。

リスト表示の場合

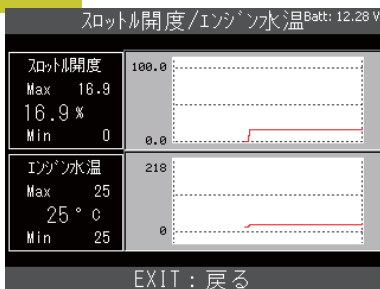
データモニタ	
エンジン回転数	0 RPM
スロットル開度	16.9 %
マニホールド圧	100.0 kPA
点火時期 #1	0.00 °
エンジン水温	25 °C
車速	0 km/h
負荷計算値	0.0 %
MIL	OFF

[上下]ボタンで 1 項目ずつ表示がスクロールします。また、画面下左右の[]ボタンでページの移動ができます。

データモニタ	
MIL	OFF
過去故障	0
失火モニタ	COMPLETE
燃料系モニタ	COMPLETE
構成部品モニタ	COMPLETE
触媒モニタ	NOT COMPL
加熱触媒モニタ	NOT SUPP
エバポレータモニタ	NOT SUPP

リスト表示画面では「データ保存」ができます。保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは「8. 履歴」(15 ページ)をご覧ください。

グラフ表示の場合



※グラフ表示は最大 2 項目しか選択、表示できません。

4 監視システムのテスト値

※OBD2 ソフトのみ

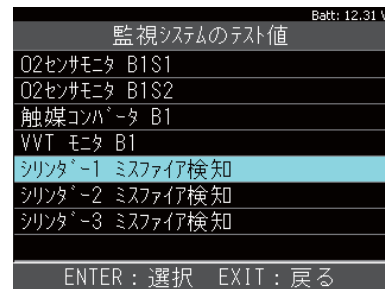
1.

「監視システムのテスト値」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



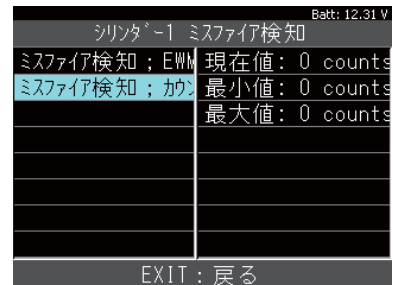
2.

テスト表示項目を選択して[ENTER]ボタンを押します。



3.

選択した項目のテスト値が表示されます。

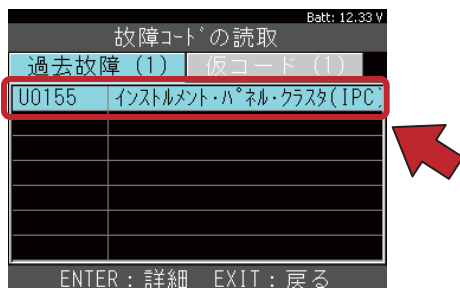


5 データ保存

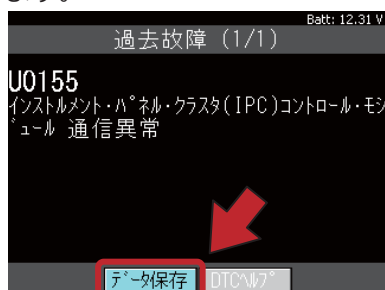
例：OBD2 ソフトの場合

故障コードの保存

- 故障コード一覧から選択して[ENTER]ボタンを押します。



- 詳細表示画面から[データ保存]を選択して[ENTER]ボタンを押します。



- データが保存されると保存されたファイル名 (例：OBDII_DTC-002) が表示されます。

保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは「8. 履歴」(15 ページ) をご覧ください。



データモニタの保存

- データモニタ表示画面から[データ保存]を選択して[ENTER]ボタンを押します。



- データの保存が開始されます。[ENTER]または[EXIT]ボタンを押すまで保存し続けます。ボタンを押すと保存を終了します。



- データが保存されると保存されたファイル名 (例：OBDII_Datastream-008) が表示されます。

保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは「8. 履歴」(15 ページ) をご覧ください。



8. 履歴



保存したデータを表示できます。

1 保存データの表示（再生）

故障コードの場合

1. 「履歴」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2. 「再生」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



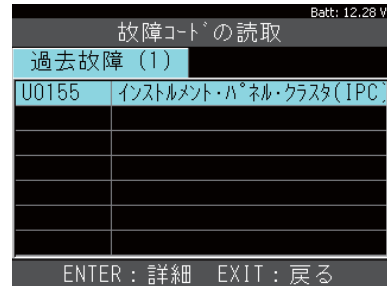
3. 表示するファイルを選択して[ENTER]ボタンを押します。
※「XXX_DTC_XXX」が故障コード保存データです。



4. 保存したデータのシステムが表示されますので、選択して[ENTER]ボタンを押します。



5. 保存したデータが表示されます。



データモニタの場合

1. 「履歴」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2. 「再生」を選択して[ENTER]ボタンを押します。

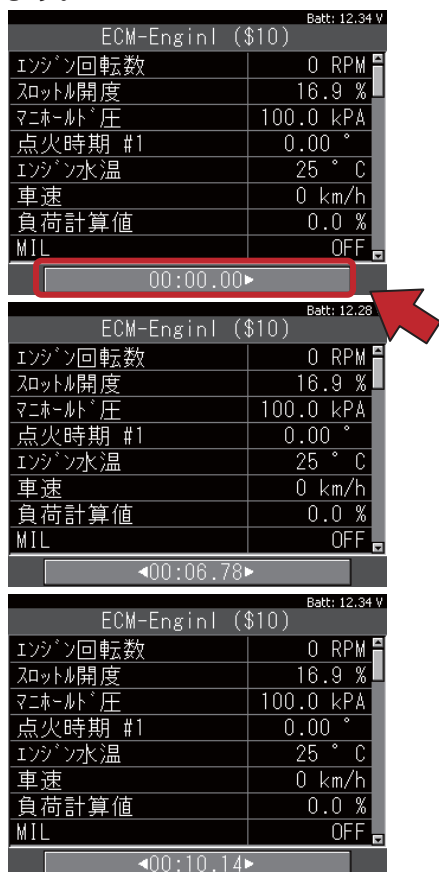


3.

表示するファイルを選択して[ENTER]ボタンを押します。
 ※「XXX_DATASTREAM_XXX」が故障コード保存データです。

**4.**

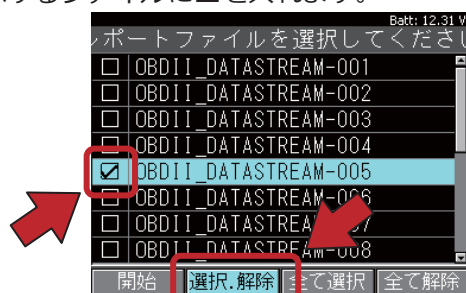
保存したデータが表示されます。
 左右矢印ボタンを押すと、保存したデータがコマ送りで表示できます。

**2 保存データの消去****1.**

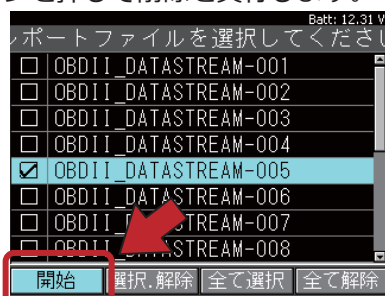
「履歴」メニューから「削除」を選択して[ENTER]ボタンを押します。

**2.**

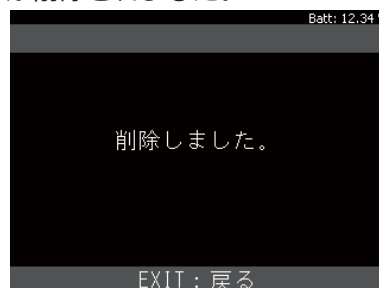
[選択・解除][全て選択][全て解除]ボタンを使用して削除するファイルに☑を入れます。

**3.**

[開始]ボタンを押して削除を実行します。

**4.**

保存データが削除されました。



9. その他の操作

注意：各メーカーソフトで診断方法が異なります。

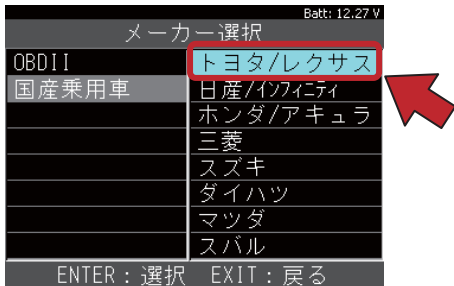
1 「全自己診断」の故障コードの読取

例：トヨタ診断ソフトの場合

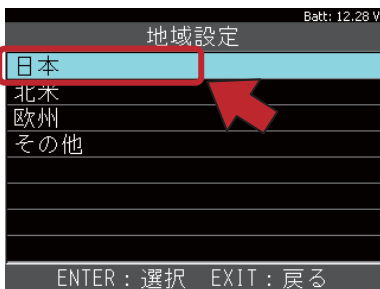
1. 「診断」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2. メーカー選択画面から「トヨタ/レクサス」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



3. 「地域設定」画面から地域を選択して[ENTER]ボタンを押します。



4. OBDII 規格を搭載したコントロールユニットを検出します。ユニットを選択して[ENTER]ボタンを押します。



5. 「自動検出」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



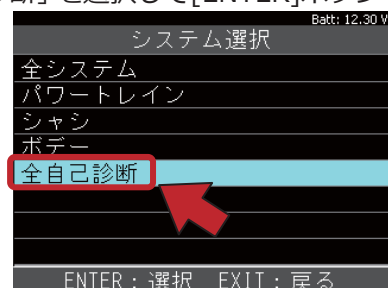
6. 「ブランド」「車名」「型式」を [ENTER]ボタンを押して順に選択していきます。



7. トヨタ診断ソフトのメインメニューが表示されます。「診断」を選択して[ENTER]ボタンを押します。

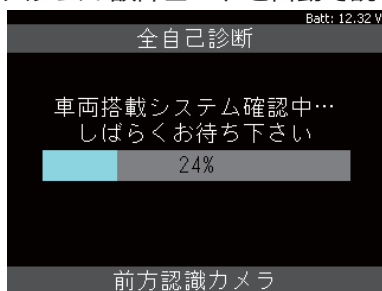


8. 「全自己診断」を選択して[ENTER]ボタンを押します。

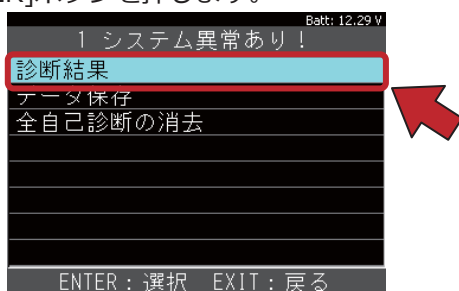


9.

車両の各システムの故障コードを自動で読取ります。

**10.**

全自己診断完了の画面です。
各システムの故障コードの有無は「診断結果」を選択して[ENTER]ボタンを押します。

**11.**

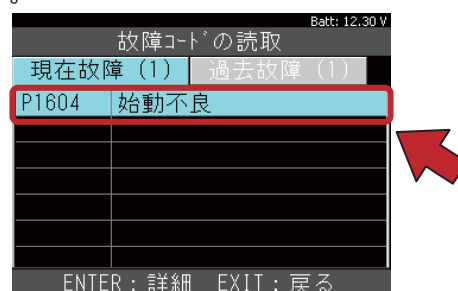
診断結果が表示されます。
故障コードがない場合は「OK」が表示されます。
故障コードがある場合はメモリされている数が表示されます。
故障コードの確認はシステムを選択して[ENTER]ボタンを押します。

**12.**

「故障コードの読取」を選択して[ENTER]ボタンを押します。

**13.**

故障コードは番号（例：P1604）と内容（例：始動不良）が表示されます。
故障コードを選択して[ENTER]ボタンを押すと詳細表示されます。

**14.**

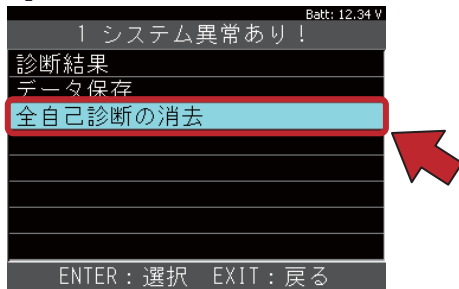
詳細表示画面では「データ保存」ができます。
保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。
詳しくは「8. 履歴」([15 ページ](#))をご覧ください。



1 「全自己診断」の故障コードの消去

1.

全自己診断完了画面から「全自己診断の消去」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



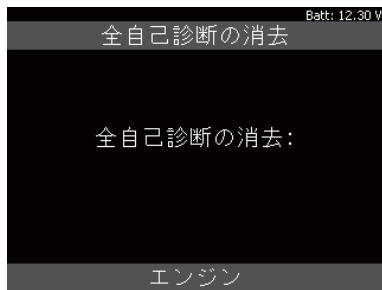
2.

[ENTER]ボタンを押して実行します。
消去は**イグニッション ON**で行います。



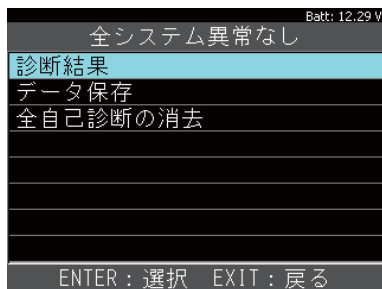
3.

各システムの故障コードを消去していきます。



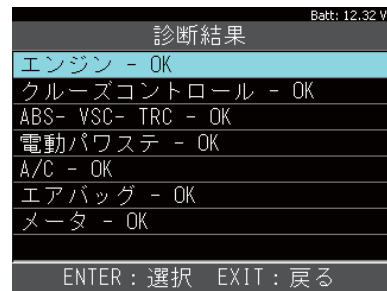
4.

全自己診断の消去が完了すると、全自己診断完了画面に戻ります。



5.

「診断結果」から全てのシステムが「OK」になっていれば消去完了です。

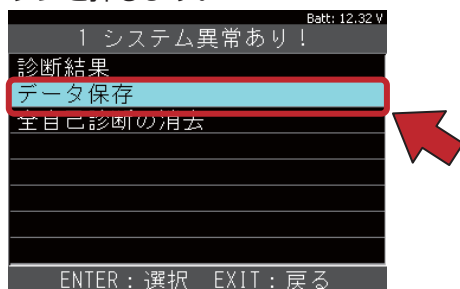


※消去できない場合は、現在も故障が発生しており、現在故障としてコードがメモリされている為です。

1 全自己診断のデータ保存

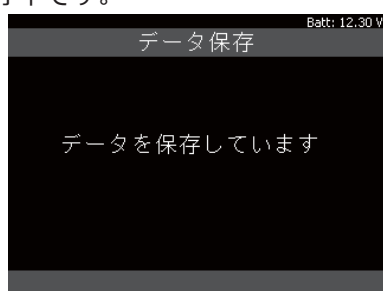
1.

全自己診断完了画面から「データ保存」を選択して [ENTER] ボタンを押します。



2.

データ保存中です。



3.

データが保存されると保存されたファイル名 (例 : Toyota_DTC-002) が表示されます。

ファイル名は、故障コードを保存した場合はメーカー名の後に「DTC」、データモニタを保存した場合は「Datastream」と表記されます。

保存したデータは「履歴」から閲覧することができます。詳しくは「8. 履歴」(15 ページ) をご覧ください。



4. その他の操作

注意：作業サポートの手順はメーカー発行の整備書を参照してください。

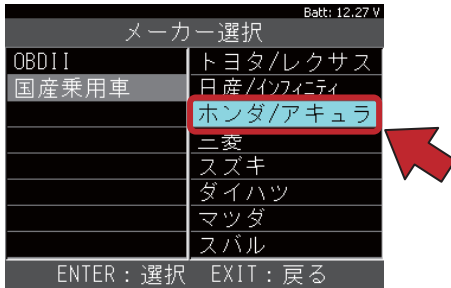
1 作業サポート

例：ホンダ車の「カーボン堆積補正值クリア」の場合

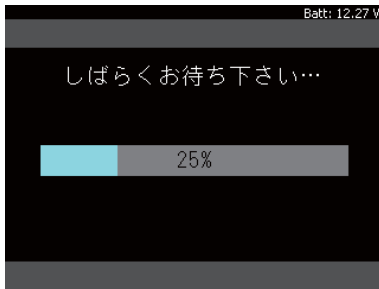
1. 「診断」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



2. メーカー選択画面から「ホンダ/アキュラ」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



3. ホンダソフトが起動して車両の検出が始まります。



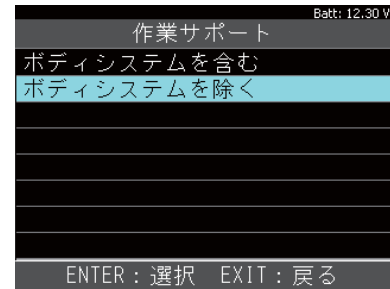
4. 車両が検出されました。
[ENTER]ボタンを押して次へ進みます。



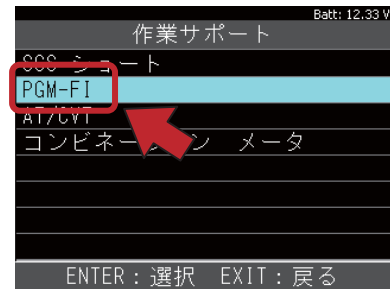
5. 「作業サポート」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



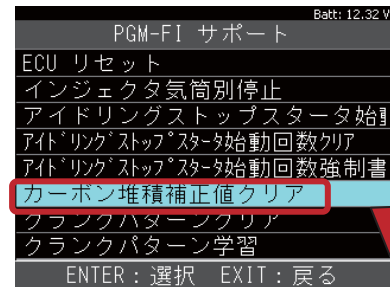
6. 目的に応じてどちらか選択します。



7. 「PGM-FI」(エンジン)を選択して[ENTER]ボタンを押します。

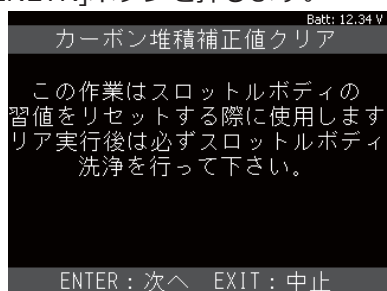


8. 「カーボン堆積補正值クリア」を選択して[ENTER]ボタンを押します。

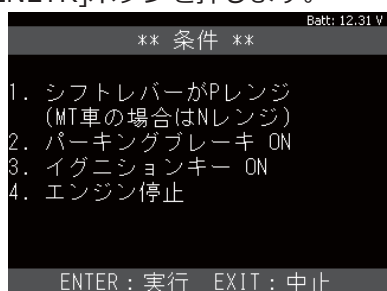


9.

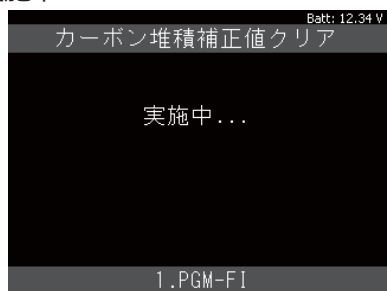
機能説明が表示されます。
確認して[ENETR]ボタンを押します。

**10.**

前提条件が表示されます。
確認して[ENETR]ボタンを押します。

**11.**

リセット実施中

**12.**

正常に完了しました。
[ENTER]ボタンを押して終了します。

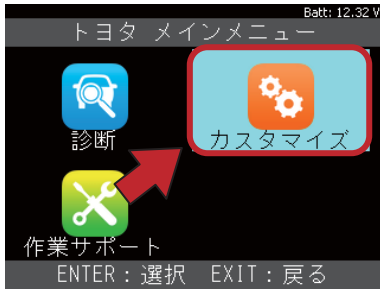


注意：カスタマイズ機能はメーカーにより異なります。

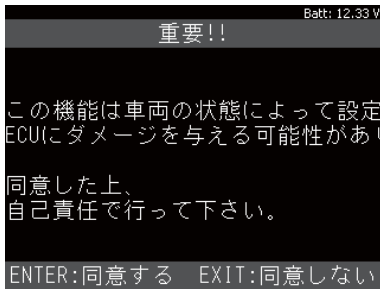
1 カスタマイズ

例：トヨタ車のシートベルトウォーニングブザー設定の場合

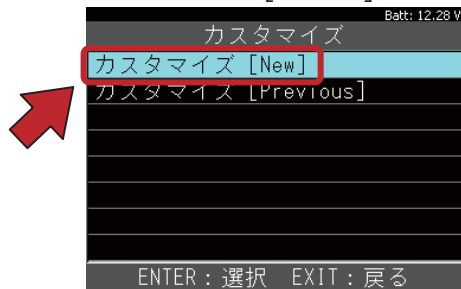
1. 17ページを参考にトヨタ診断ソフトのメインメニューまで進みます。「カスタマイズ」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



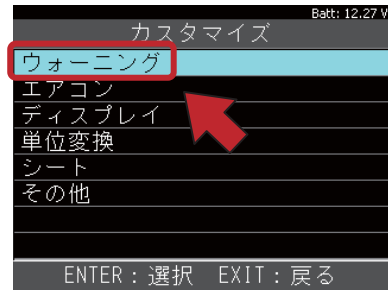
2. 注意事項が表示されます。確認して[ENTER]ボタンを押します。



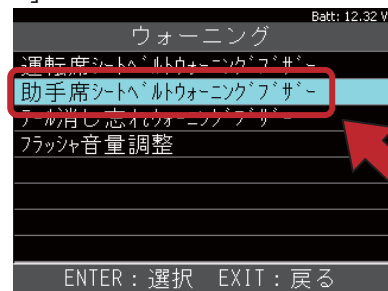
3. 「New」（ディーラー診断機に準拠した項目）と「Previous」（それ以前の項目）が表示されます。通常は「New」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



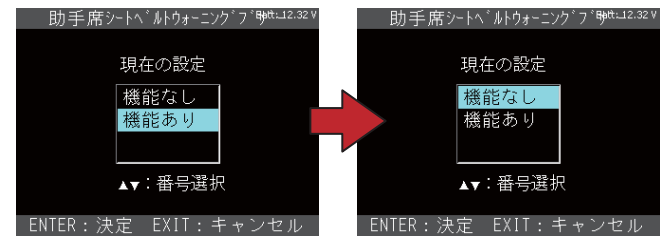
4. カテゴリー別に表示されます。「ウォーニング」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



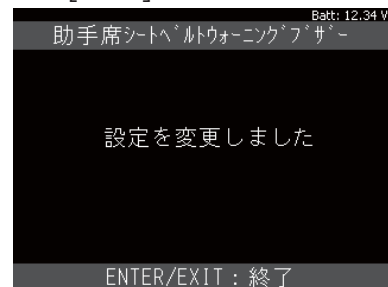
5. 「助手席シートベルトウォーニングブザー」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



6. 現在の設定が反転して表示されます。上下矢印ボタンで選択後[ENTER]ボタンを押して決定します。



7. 設定が変更されました。[ENTER]または[EXIT]ボタンを押して終了します。



10. メンテナンスモード



よく使うメンテナンス機能（バッテリー交換やオイル交換など）が集約されています。

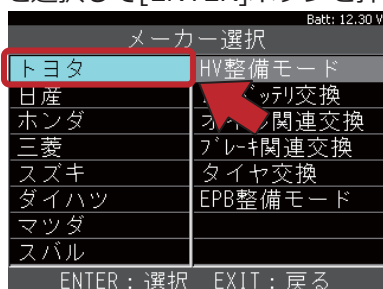
1 メンテナンスモード

例：トヨタ車の「HV 整備モード」の場合

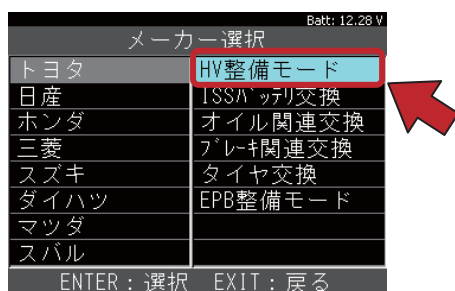
1. 「メンテナンスモード」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



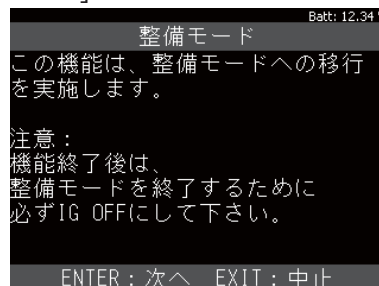
2. 「トヨタ」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



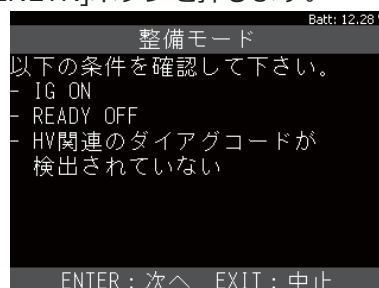
3. 「HV 整備モード」を選択して[ENTER]ボタンを押します。



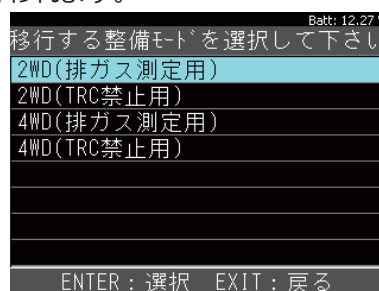
4. 機能説明が表示されます。確認して[ENETR]ボタンを押します。



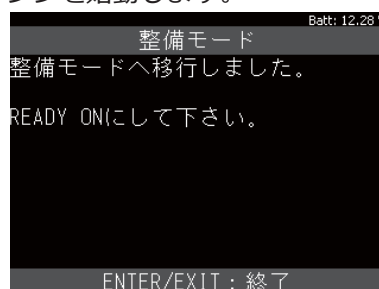
5. 前提条件が表示されます。確認して[ENETR]ボタンを押します。



6. 整備モード選択メニューが表示されます。目的に応じた項目を選択して[ENETR]ボタンを押します。
ヒント：排ガス測定用を実行すると TRC 禁止も同時に行われます。



6. 整備モードへ移行しました。ブレーキペダルを踏んで、イグニッションスイッチを押してエンジンを始動します。

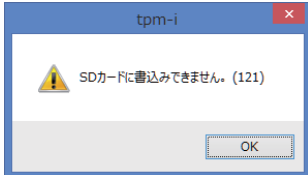


11. トラブルシューティング

アップデートが正常にできない場合は、セキュリティソフトやパソコンの設定で外部メモリへの書き込みが禁止されている場合があります。事前に設定などを確認した上で、以下の手順を行ってください。

Q.1 書き込みができない

[アップデートチェック]ボタンを押しても「書き込み出来ません」「再試行してください」とメッセージが表示されてアップデートが行えない。



A.1 「tpm-i.exe」(アプリケーション)を最新のバージョンにして行ってください。

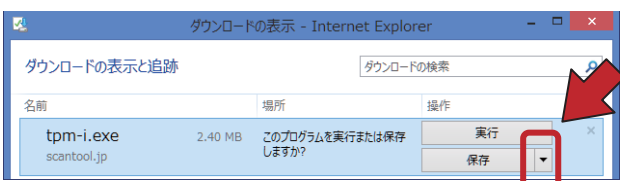
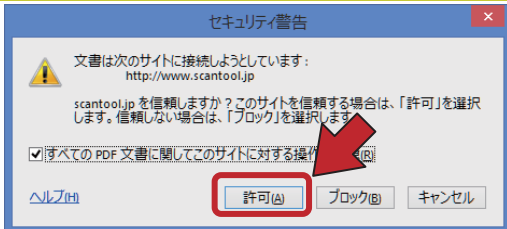
アプリケーションを最新にすることにより、アップデートを行える場合があります。

1. 以下のリンク先にアクセスしてください。

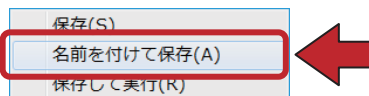
<http://www.scantool.jp/downloads/tpm-i/tpm-i.exe>

2. メッセージが画面下に表示されますので、保存の右にある▼をクリックします。

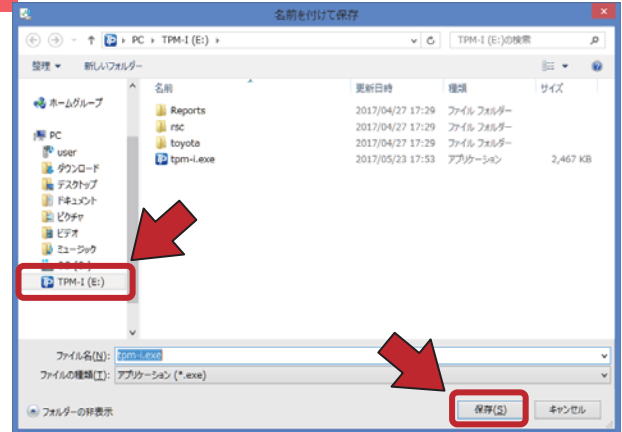
セキュリティ警告メッセージが表示された場合は接続サイトを確認して許可してください。



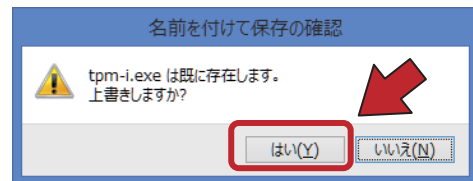
3. 「名前を付けて保存」をクリックします。



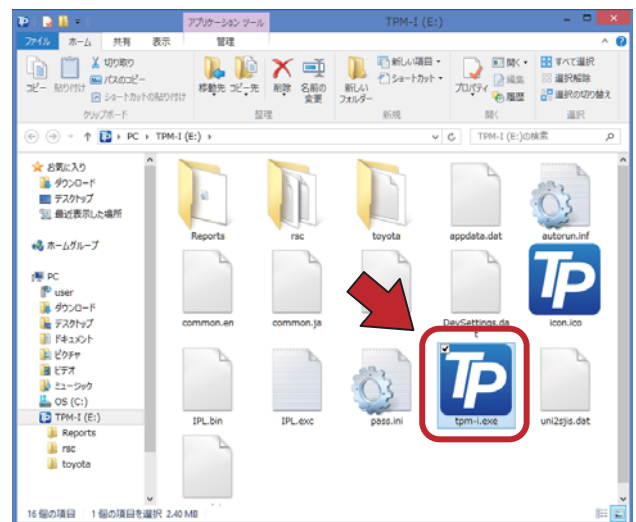
4. 保存先を「TPM-I」にして[保存]をクリックします。



5. 同じ名前のファイルがある場合は次のメッセージが表示されますので[はい]をクリックします。



6. 保存が完了したらアップデート手順(7ページ)を参考にアップデートを行ってください。



A.2 フォーマットしてアップデートを行ってください。

アプリケーションを最新にしても書込みが出来ない時は、フォーマットすることにより正常に書込みができる場合があります。

1. この作業は先に必要なファイルをパソコンにバックアップ（保存）した後に行います。

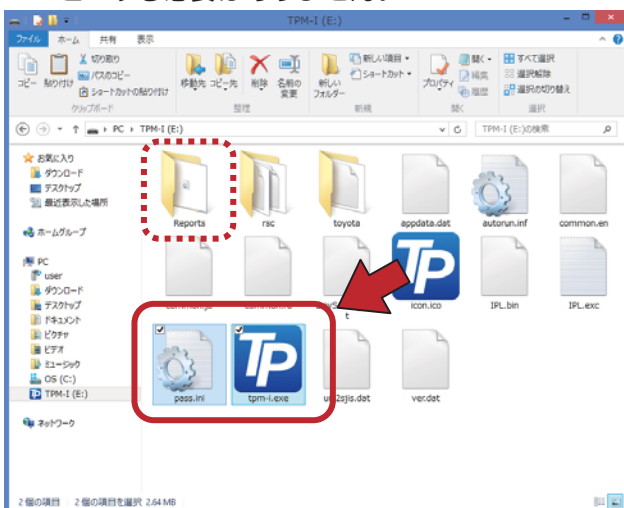
「3. 登録とアップデート」のアップデート 1~2 を行います。（7 ページ）

2. 「TPM-I」の内容が表示されます。

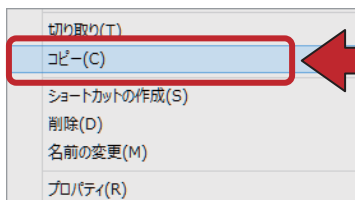
画像を参考に以下のファイルをコピーします。

- tpm-i (tpm-i.exe) (アプリケーション)
- pass (pass.ini) (構成設定ファイル)
- Reports (フォルダ)

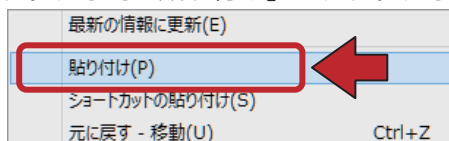
※「Reports」フォルダは、故障コードやデータ表示などで[保存]を実行した場合にファイルが保存されているフォルダです。保存していなければコピーする必要はありません。



3. 対象ファイルを右クリックして「コピー」をクリックします。



4. コピー先（デスクトップなど任意の場所に）で右クリックして「貼り付け」をクリックします。

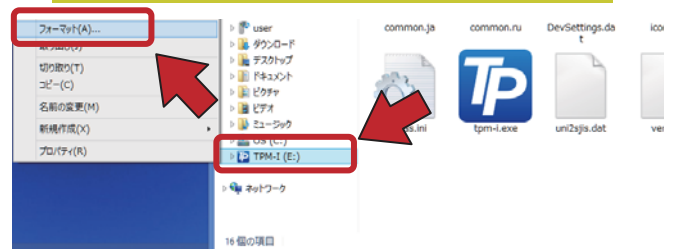


5. パソコンへ必要なファイルのバックアップ（保存）が完了しました。

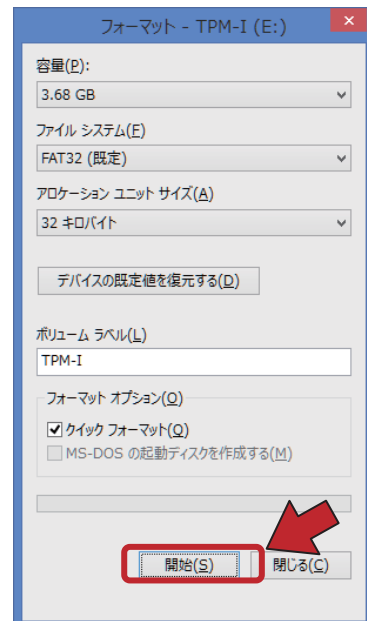


6. バックアップが完了したらフォーマットを開始します。
「TPM-I」を右クリックして「フォーマット」をクリックします。

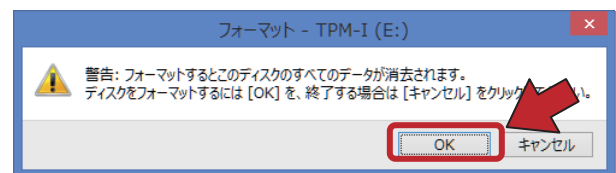
フォーマットするドライブにご注意ください。



7. フォーマットの画面が表示されますので、[開始]をクリックします。

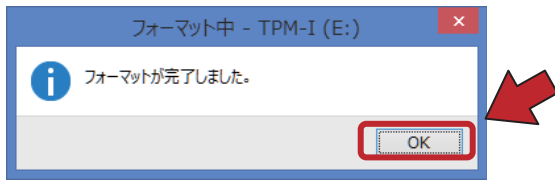


8. フォーマットの確認メッセージが表示されます。確認して[OK]ボタンをクリックします。

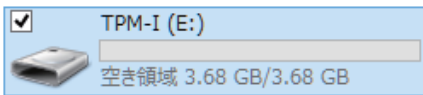


5. トラブルシューティング

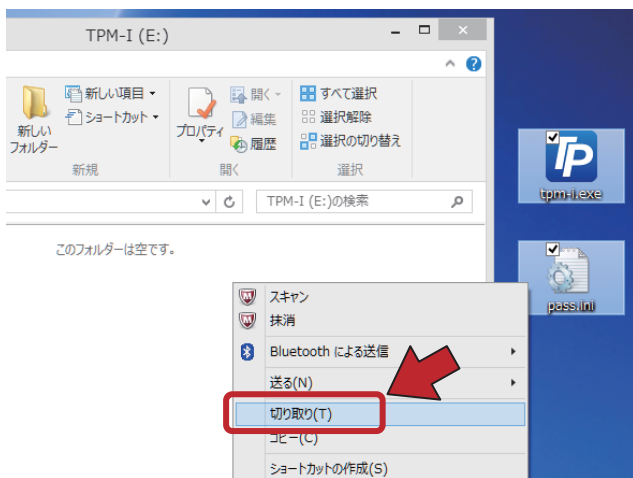
9. フォーマット完了のメッセージが表示されます。
[OK]ボタンをクリックします。



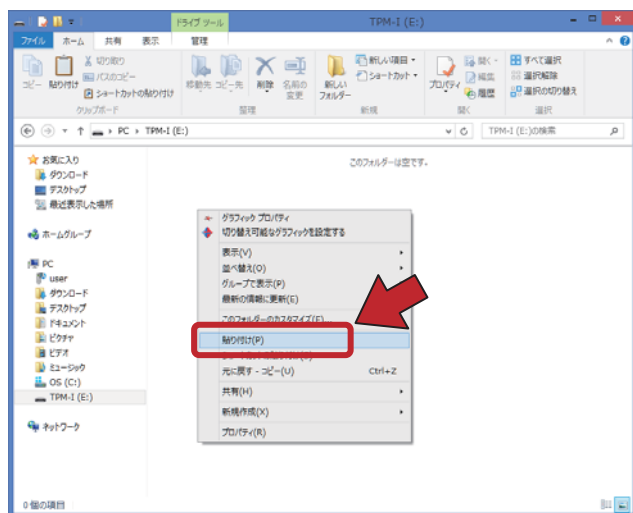
10. フォーマットが完了すると、通常のリムーバブルディスクのアイコンに変わります。



11. 先程バックアップ（保存）したファイルを右クリックして「切り取り」または「コピー」します。

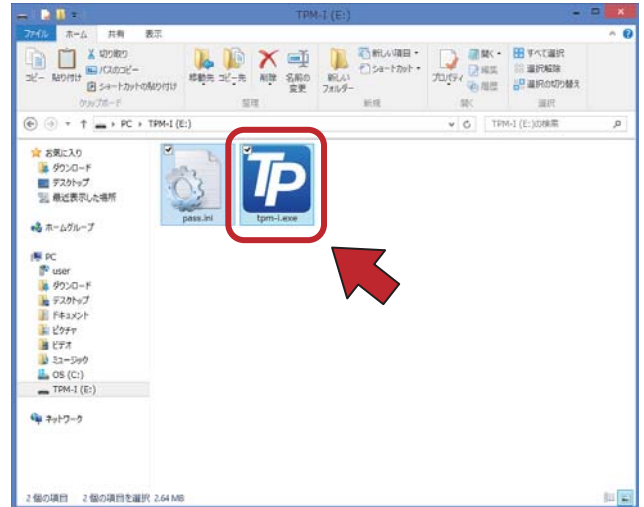


12. フォーマットが完了した「TPM-I」（リムーバブルディスク）に右クリックしてファイルを貼り付けます。



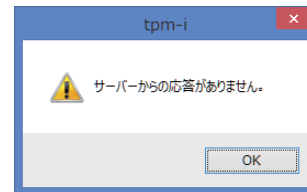
13. 貼付けが完了しましたら「tpm-i (tpm-i.exe)」をダブルクリックして起動します。

起動後アップデート手順（7 ページ）を参考にアップデートを行ってください。



Q.2 サーバーからの応答がない

「サーバーからの応答がありません。」とメッセージが表示されてアップデートが行えない。



A.1 パソコンの設定やセキュリティソフトを確認してください。

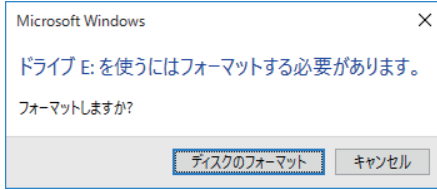
パソコンの設定やセキュリティソフトの設定を確認してください。

設定はパソコンの管理者またはセキュリティソフトのメーカーへお問合せください。

また、インターネットが正常に接続されているか確認してください。

Q.3 「フォーマットする必要があります」とメッセージが表示される。

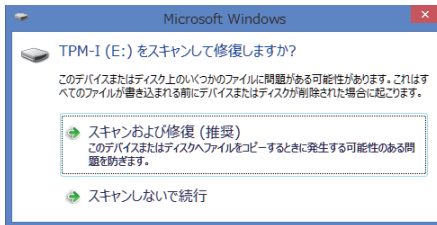
パソコンに接続しても以下のメッセージが表示され、TPM-Iのドライブが表示されない。

**A.1 販売店へご連絡ください。**

お手数ですがご購入された販売店へご連絡ください。

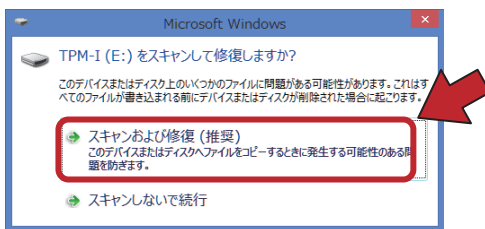
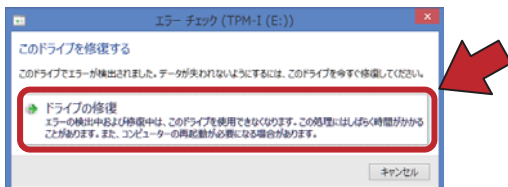
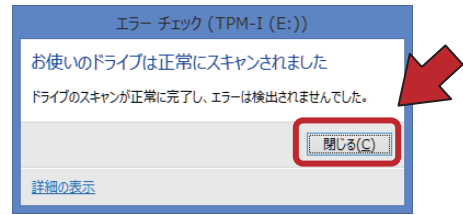
Q.4 「スキャンして修復しますか？」とメッセージが表示される。

パソコンに接続すると「スキャンして修復しますか？」のメッセージが表示される。

**A.1 修復をすると問題が解決される場合があります。**

修復することにより問題が解決する場合がありますので、「スキャンおよび修復」を実行されることを推奨します。

スキャンしないで続行することもできます。

1. 「スキャンおよび修復」をクリックします。**2. 「ドライブの修復」をクリックします。****3. 正常にスキャンされました。[閉じる]をクリックして終了します。**

12. 保証について

- ・TPM-i はお客様がインターネットを使用してユーザー登録した日を開始日として 1 年間保証されます。但し、保証期間はインターネットを使用して正しくユーザー登録されている場合にのみ有効です。
- ・保証対象は本体のみです。ケーブルなどの付属品は保証対象外です。
- ・保証期間内に正常な使用方法にて故障した場合は、無償修理いたします。
- ・火災、天災による故障の場合は保証適応外となります。
- ・乱用、改造、分解あるいは意図された用途以外の目的に使用された場合は保証適応外となります。
- ・原則的に本製品は現品修理となります。
- ・お買い上げになりました TPM-i 本体、ケーブル、アダプタなどを修理のために送付しなければならない場合の往復運賃はお客様のご負担となります。

保証期間：ユーザー登録から 1 年間

- ・期間終了後 1 ヶ月以内にアップデート延長申込をされた場合に限り、本体保証も 1 年間延長されます。

※アップデートおよび保障期間はメインメニューの「本体 ID」からご確認いただけます。

お問合せ先について

製品の取り扱いに関するお問い合わせ並びに診断不可車両がございましたら自動車検査証など車両情報が分かるものをご用意の上、お買い上げの販売店までご連絡ください。

なお、故障コードに対する修理方法等は返答致しかねますので、車の修理書等をご覧頂く様予めご了承願います。

製造元

株式会社ツールプラネット

〒500-8122 岐阜県岐阜市旭見ヶ池町 43-2